

好機・勝機をつかむ タイミングマネジメント®

坂本敦子

Sakamoto Atsuko

株式会社プライムタイム 代表取締役、人財育成コンサルタント/産業界/心理相談員、航空会社、外資系総合化学会社人事部長を経て、1995年に人財育成コンサルタントとして独立。「リーディング」「CS・顧客満足」「キャリアデザイン」「コミュニケーション＆マネー」等の講演や研修を幅広く活動している。「タイミングマネジメント」を開発し、2005年に発表。現在、その普及に使命感をもって取り組んでいる。経済産業省 独立行政法人人材開発公団 理事、Kokoro Center for HRD。

「塾とこの会とどっちが大切なんだ。今、この瞬間、時間は二度とないということ、をわかっているのか」

高校三年生の大学受験を控えた一二月のある出来事。父と母の結婚式のお祝いの会が塾に行く日と重なってしまい、途中で塾に行こうか迷っていたときのことでした。私がそわそわしている様子を見た兄が私を厳しく叱りました。

私はハッとさせられました。「今、私は何をするべきタイミングなのか」という問いをつきつけられたのです。私は目の前にある大切なことを見失いそうになっていた自分が恥ずかしくなりました。

この出来事は、その後の人生における行動に大きな影響を与えました。

私が今回「タイミングをつかみとる人、はずす人」を執筆するに至った原点は、家族とのコミュニケーションの中にあつたのです。母から勉強しなさいと言われる記憶はほとんどありませんが、するべき場面できちんと挨拶することや悪いと思つたらすぐにごめんなさいと言うこと、の大切さは口うるさく言われました。これはまさに「タイミング」のことだったので。そんな環境で育つた私は、社会人になってからも「今は何をするタイミングなのか」ということを意識して行動

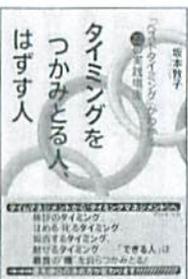
するようになりました。

人財育成コンサルタントとして一二年間、新人研修、管理職研修、経営幹部研修、CS（顧客満足）研修とさまざまなテーマで数多くの研修生の方々と真剣に向き合い、さまざまな成功体験や失敗体験を語り合ってきた中で、「日常業務や人間関係の中で成功体験、失敗体験の要因分析をしてみましょう」という課題をだしてグループディスカッションしていただく、必ずと言っていいほど「タイミング」という言葉がでてくるのです。どの研修テーマでも「ビジネス、人生すべてにおいて行動することも大切ですが、それ以上に大切なことは行動するときのタイミングですね。同じ行動をとってもタイミングがいいか、悪いかによつても、ものがうまくいったり、いかなかったりしますね」という言葉を大勢の方からお聞きします。

例えば、「訪問したタイミングがよかったので契約できた」「確認するタイミングがよかったので大事故にならなかつた」というビジョン、目標をいつも考えていること。

そして、周囲や相手の状況・心の変化をよく観察し、「今、行動しなかつたらどうなるか」ということを予測、判断し、「ここだ！」という機をつかんで行動する勇氣と決断力を持っています。また、機をつかんだときに最適な行動をとることができるスキル、情報、ネットワークも身につけているのです。

この本では「タイミングを自らつかむ力」に注目して、タイミングをつかむための要素とタイミングをつかんで行動するポイント、さまざまな事例を通して紹介します。小さなグッドタイミングの連鎖がイキイキ輝く人生を手に入れるきっかけになることでしょう。



「タイミングをつかみとる人、はずす人」
坂本敦子 [著]
定価1500円 (税5%)

た」「ほめるタイミングがよかったので、チームのメンバーの能力を最大限に引き出すことができた」「報告するタイミングを逸してしまい、クレームが発生してしまった」等、あらゆる場面で「タイミング」がビジネスの大切なキーワードとして挙がってきます。

このように数多くの研修受講者の方々の事例から、私は目標を達成するために一人ひとりがいかにタイミングを意識して行動するかがポイントであると確信しました。情報量や知識、技術、経験、特定のビジネス能力、人柄は重要ですが、結果をだしている人や企業は最良の「機」＝タイミングを自らつかんで行動しているのです。

私たちは成功したときに「タイミングがよかった」と喜んだり、うまくいかなかったときに「タイミングが悪かった」と残念がったり、成否を受け身で語っていることが多いのではないのでしょうか。しかし、この解釈ではタイミングは運命的に与えられたものとなってしまいます。

成功の秘訣がタイミングであるとしたら、積極的にタイミング（好機・勝機）をつかむことが重要です。

タイミングをつかむという行動は、写真撮影のシャッターチャンスに似ています。「ここぞ！」という決定的瞬間を逃さないためには、まず、「自分は何を撮りたいのか？ どんな状態を撮りたいのか？ それは自分にとってどんな意味があるのか？ 撮ったらどうなるのか？」という価値観・ビジョン、熱い思いが必要で。また、被写体をよく観察し、状況の変化を予測し、判断すること。そして、シャッターボタンを素早く押すというスキル（技術）がないとい写真が撮れません。

タイミングをつかんで成功している人々たちを分析してみると、共通のポイントがあつたのです。それは、「何が大切か？」という価値観をしっかりと持っているということ。「自分（たち）はどうなりたいか」「自分（たち）はどうしたいか」「自分は相手とどうなりたいか」